

第7回
神奈川県美術展

第7回 神奈川県美術展

会 場 会 期 部 門

神奈川県立近代美術館 2月29日—3月12日 コンクール部門 日本画・洋画・水彩
版画・彫刻

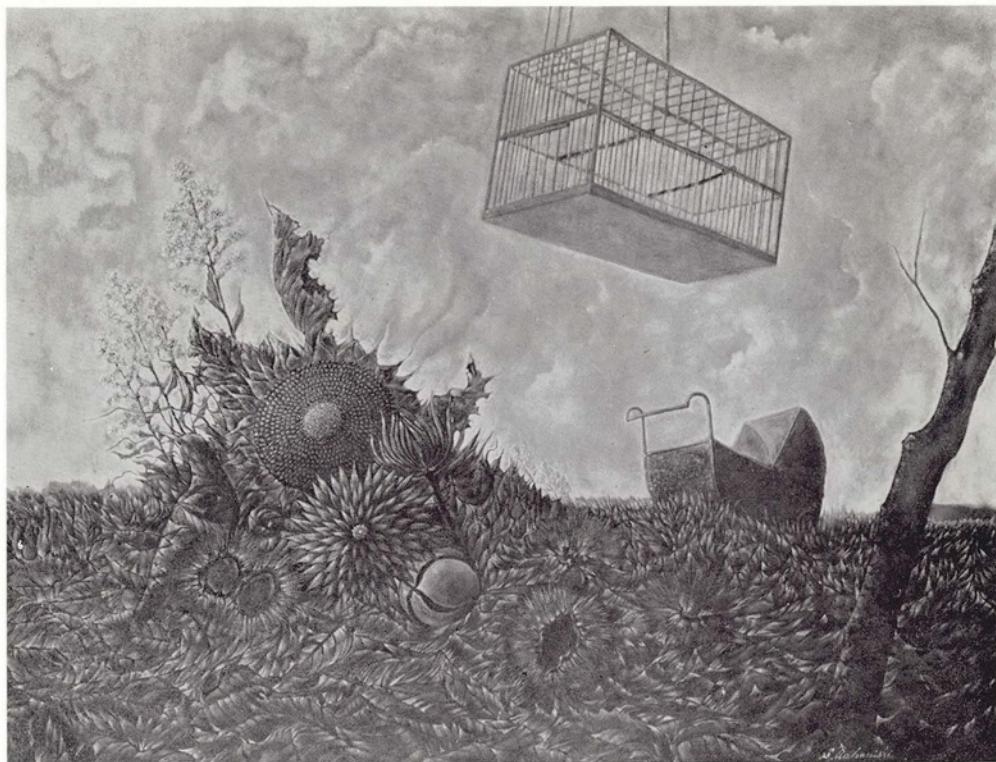
神奈川県立博物館 3月2日—3月15日 コンクール部門 工芸・書・写真
招 待 部 門 立体造形・工芸・写真

有隣堂本店 3月5日—3月11日 招待部門 書

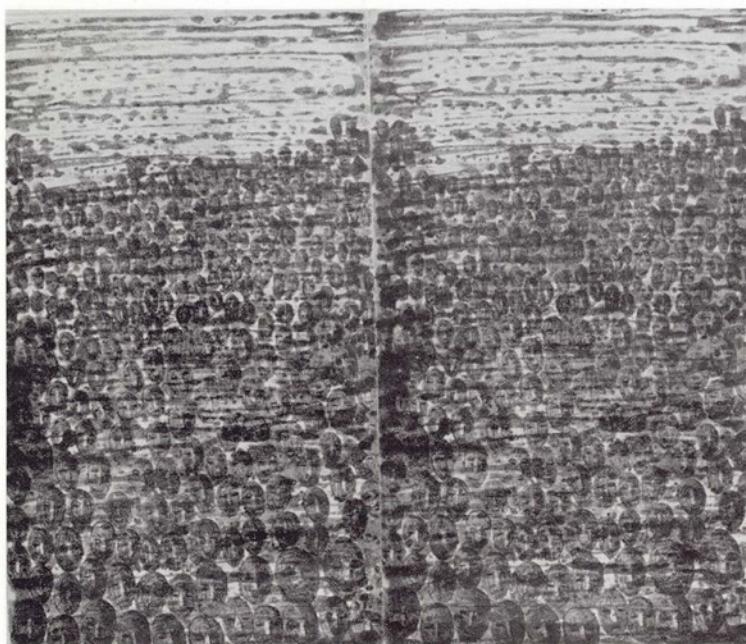
横浜高島屋 3月21日—3月26日 招待部門 日本画・洋画・水彩
版画・彫刻・立体造形

主催 神奈川県美術展委員会・神奈川県教育委員会・神奈川県

コンクール部門



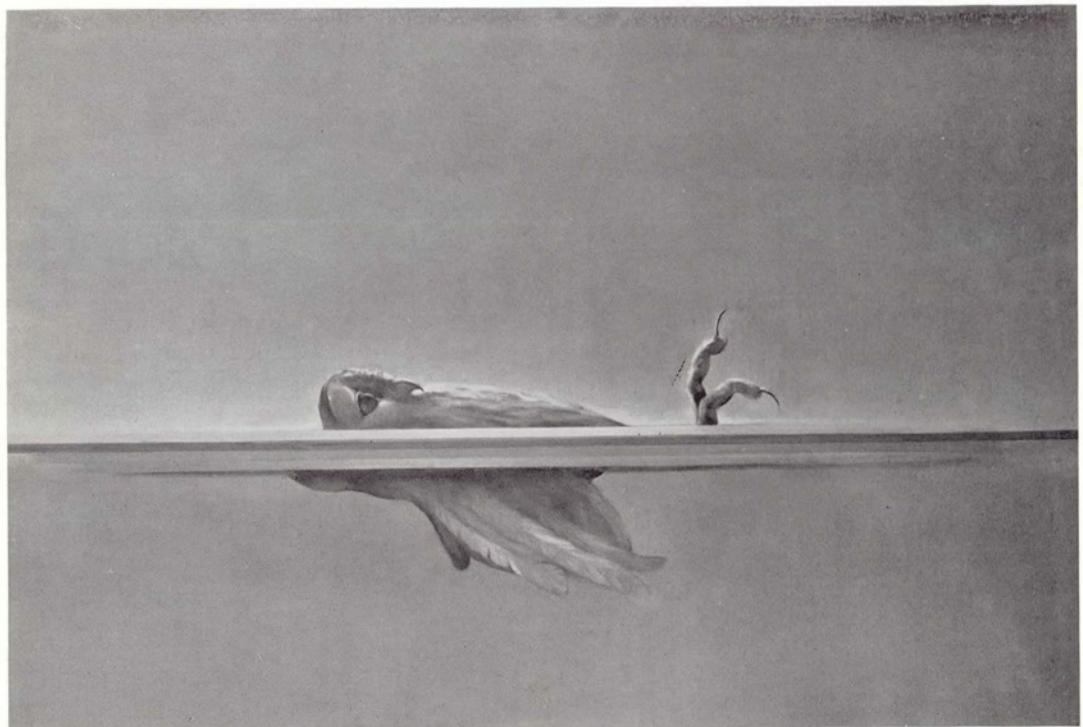
大賞 中西新太郎 落日(洋画)



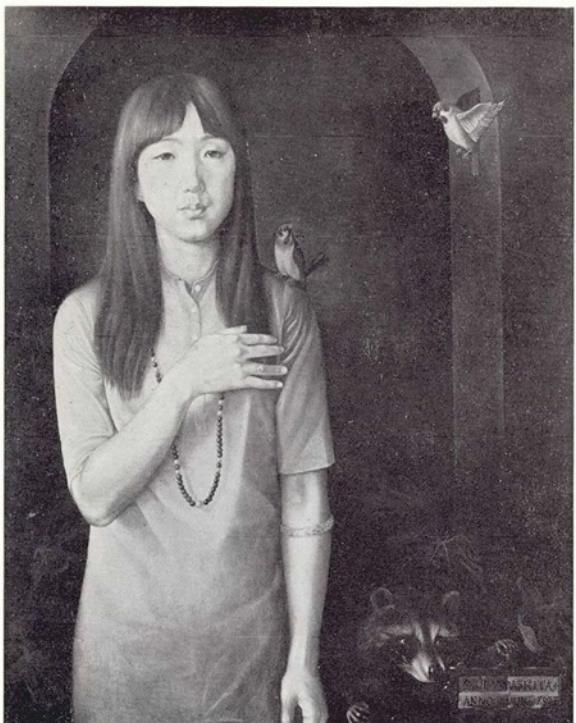
近代美術館賞 佐久間恭子 人(版画)



美術奨学会賞 三繩 健 焚(日本画)



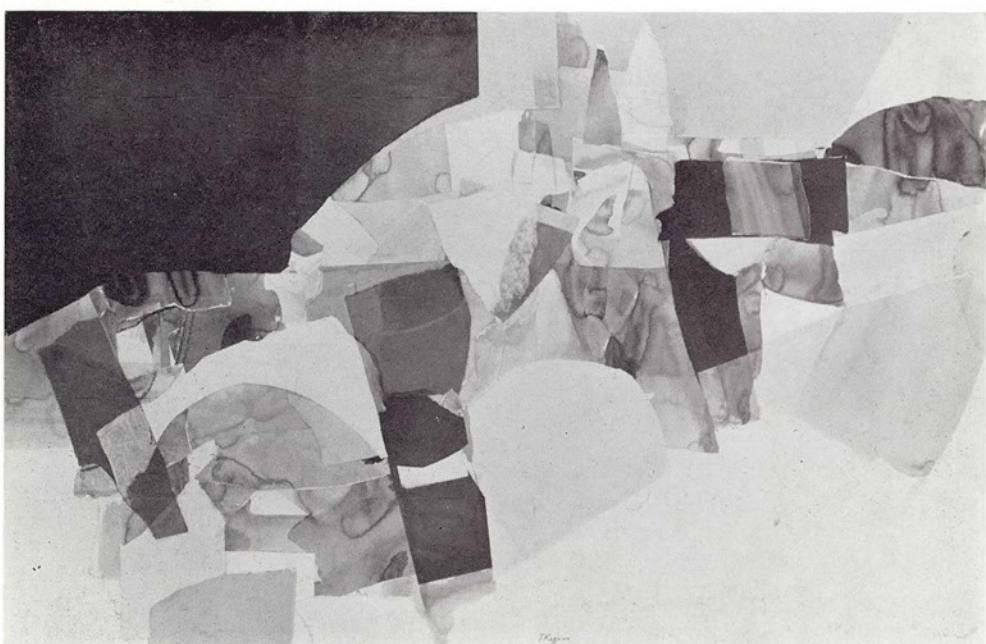
美術奨学会賞 森 秀男 帰結の詩(洋画)



特選 山下征治 若い女の肖像(洋画)



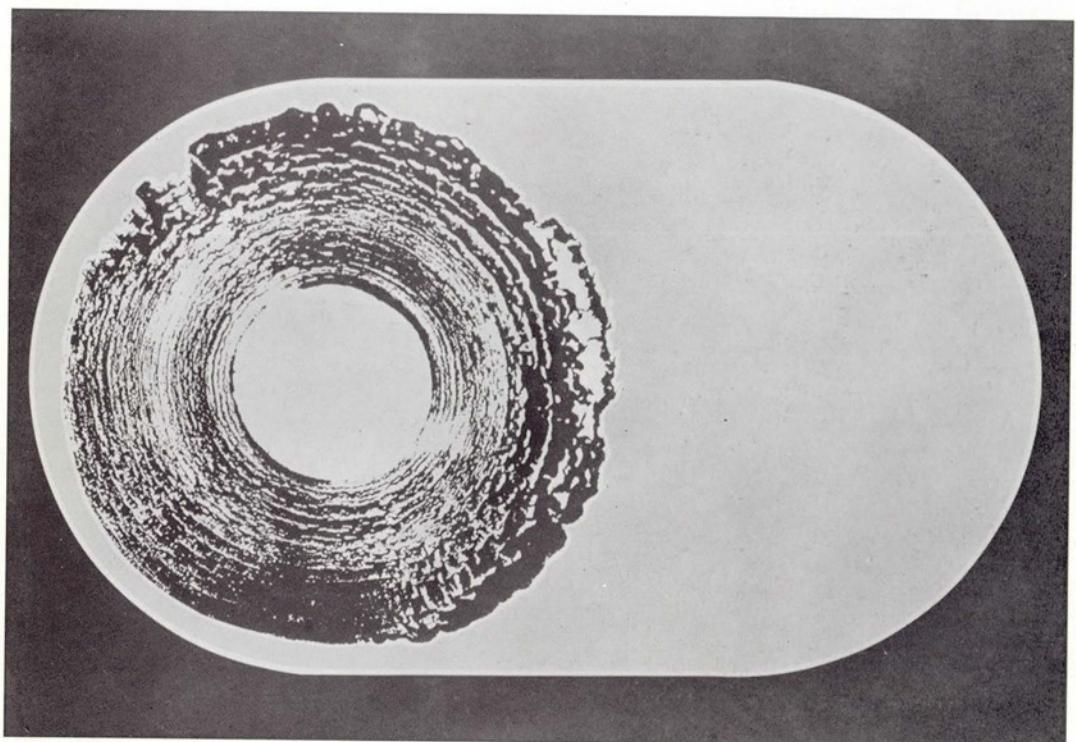
野沢屋賞 油野由美子 葛の森(日本画)



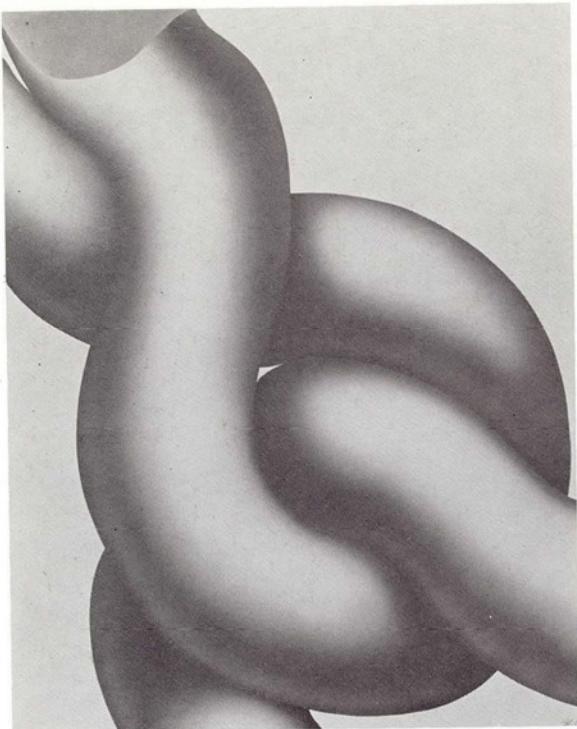
美術奨学会賞 香川 猛 雪の街A(水彩)



松屋賞 加藤敏夫 女の館(日本画)



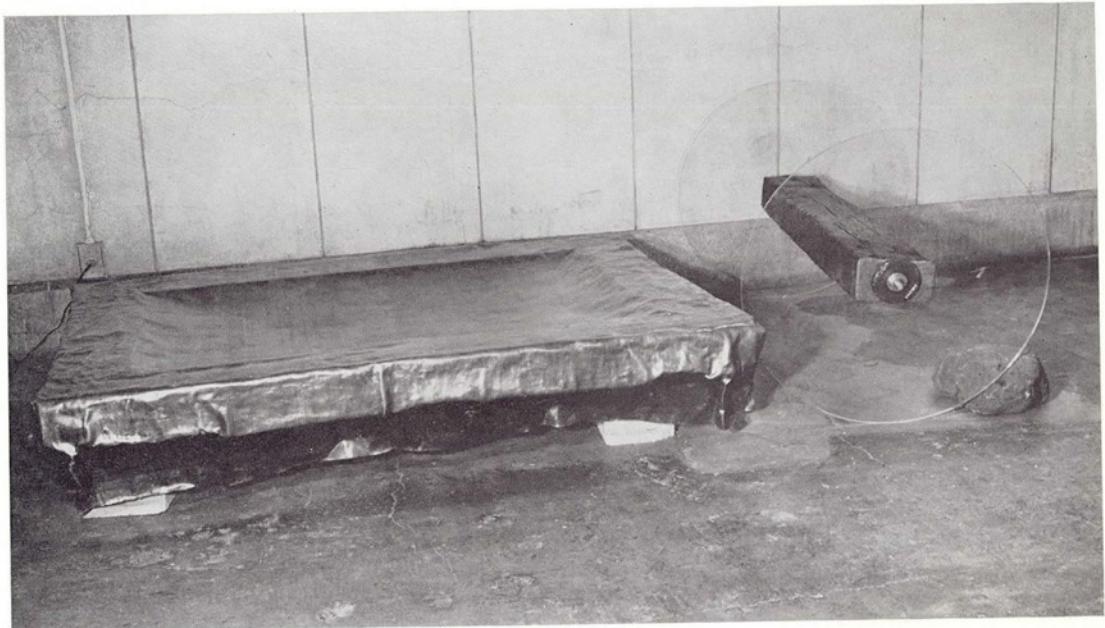
特選 高岡松夫 輪の空間(版画)



横浜高島屋賞 土屋良雄 景像B(洋画)



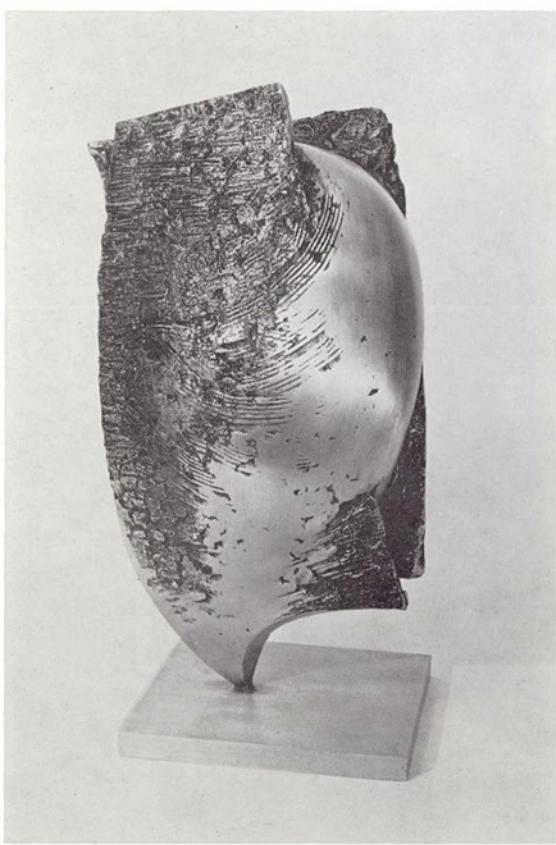
県議会議長賞 中島嘉樹 トルソ・男(彫刻)



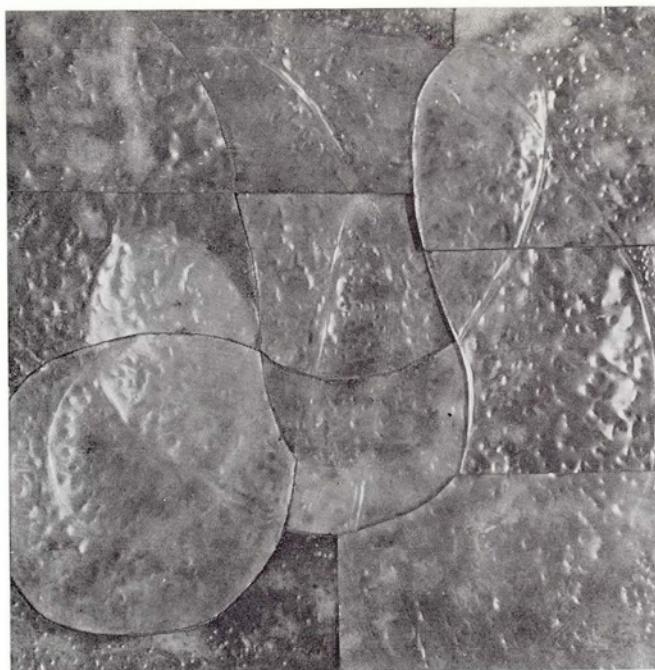
美術奨学会賞 鶴沢明人 車輪と沈黙(立体造形)



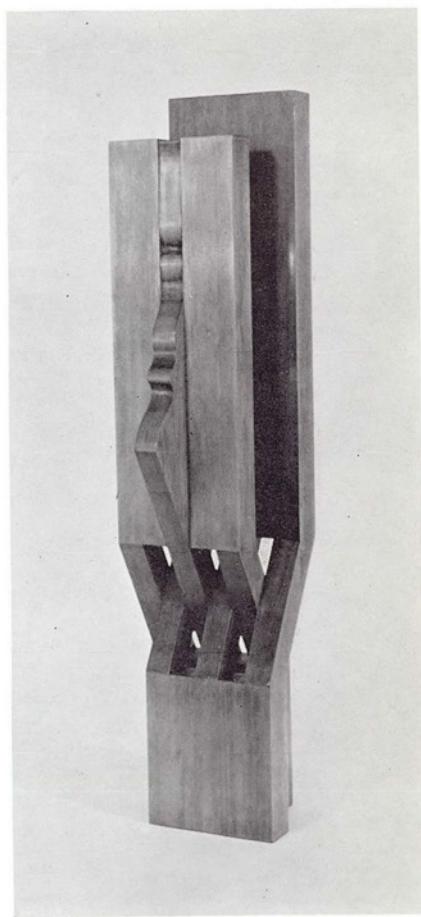
特選 五十嵐千代子 深海



特選 江井賢式 秦



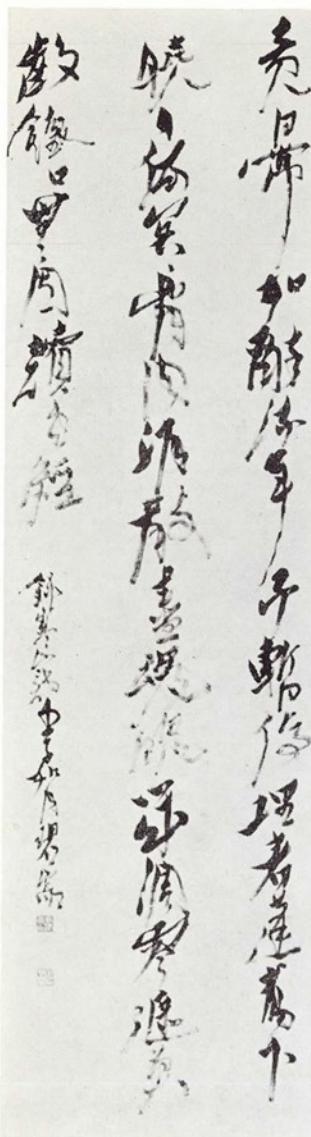
特選 堀 久代 七宝の壁面



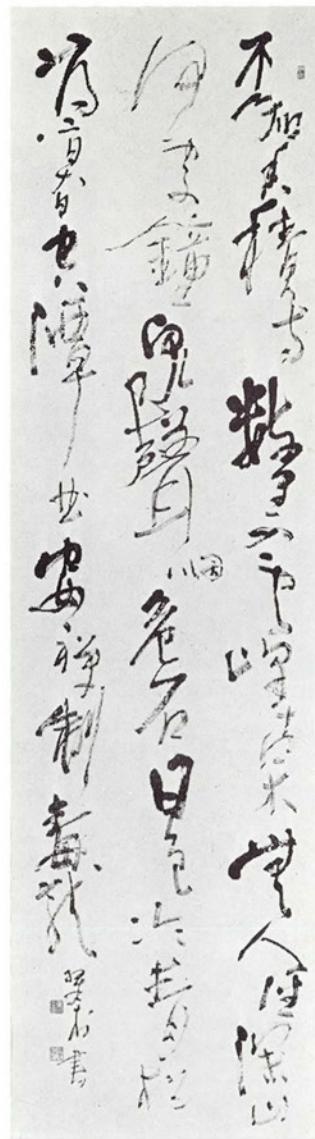
特選 竹内佳夫 作品32 CROSS



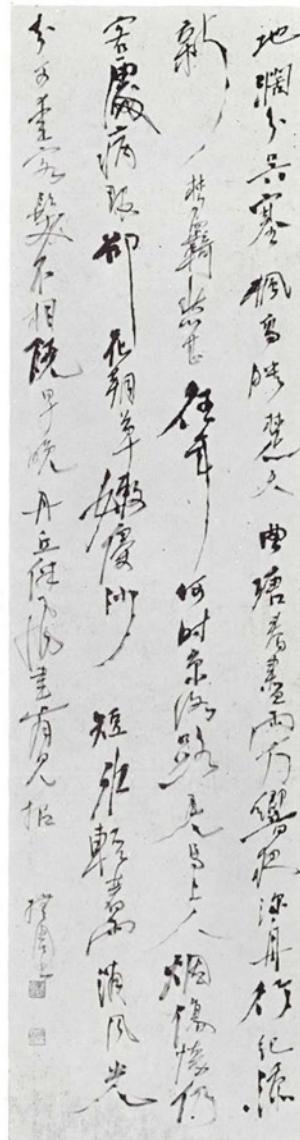
特選 神山尚子 手織紬 着物 1



大賞 烏津碧嵒 寒山詩



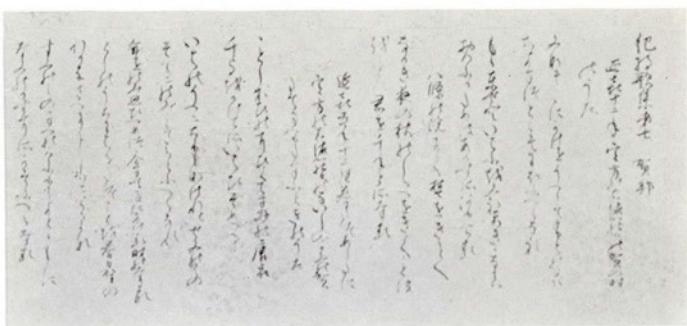
特選 重田翠村 過香積寺



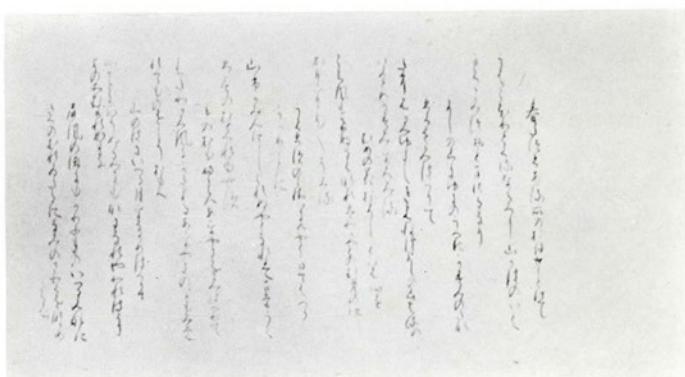
特選 矢島撫周 司空図詩 五言律詩



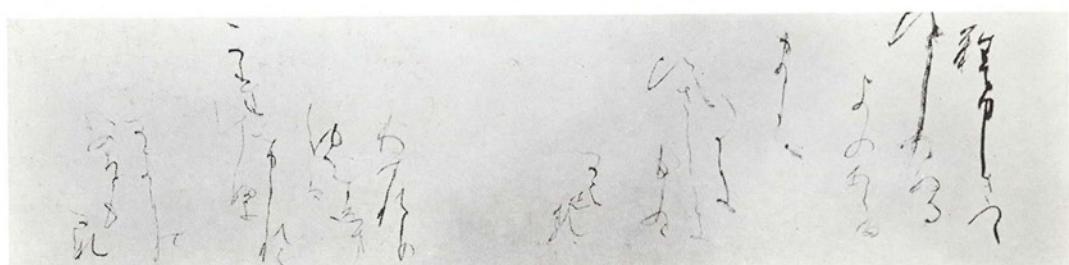
酒井賞 石川芳雲 任蕃詩秋晚郊居



特選 岡田扇香 臨書西本願寺三十六人集(部分)



特選 真柄百合子 針切臨書(部分)



特選 阿部愛子 百人一首



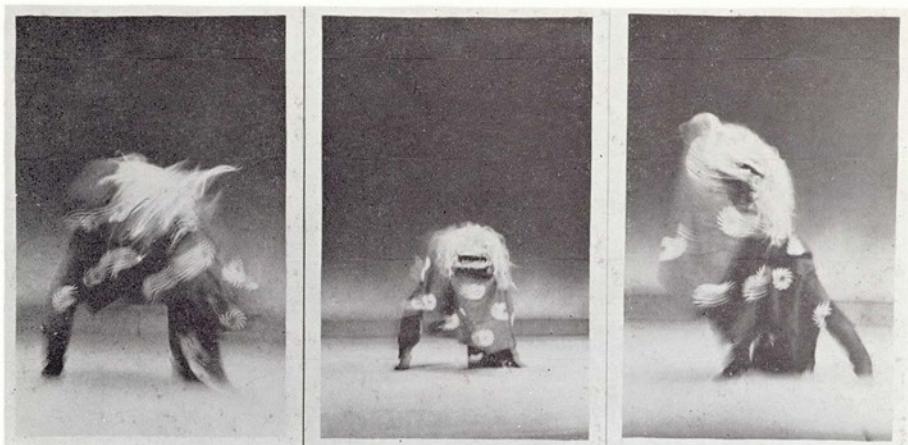
大賞 大谷正夫 師ミス・サンダー(フェリス女学院)



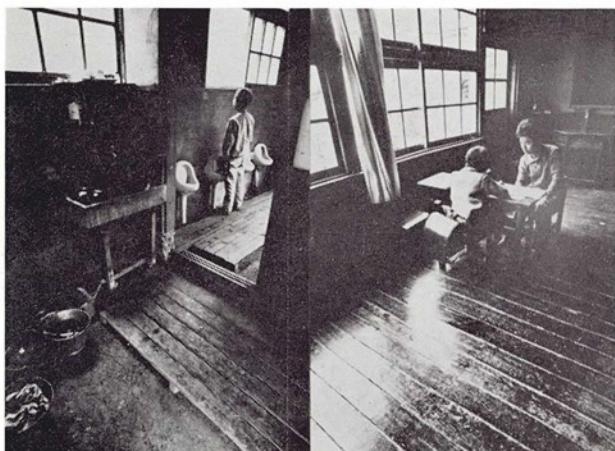
特選 吉田政行 高原の朝(カラー)



特選 菊地喜保 マレーシヤの少女



写真奨励賞 柳井秀芳 獅子舞



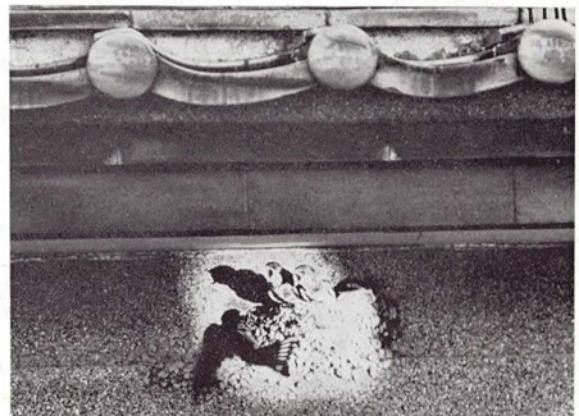
写真奨励賞 中島倍三 山の分校(丹沢にて)



写真奨励賞 海老塚光男 湯の町芸妓



写真奨励賞 望月資介 市の夜



写真奨励賞 中牧一二 愛情(カラー)



写真奨励賞 重野音吉 心のかて



写真奨励賞 杉山寿一 残照(カラー)



写真奨励賞 笹尾佳夫 三ッ石の夜



写真奨励賞 山本貞雄 出店

コンクール部門出品目録

絵画・彫刻部門

入賞

大賞

中西新太郎 落日 洋画

近代美術館賞

佐久間恭子 人 版画

県議会議長賞

中島嘉樹 トルソ・男 彫刻

美術奨学会賞

三繩 健 焚	日本画	
森 秀 男 帰結の詩	洋画	
香川 猛 雪の街A	水彩画	
鶴澤 明人 車輪と沈黙	立体造形	

特選

高岡松夫 輪の空間	版画	
山下征治 若い女の肖像(1)	洋画	

松屋賞

加藤敏夫 女の館	日本画	
----------	-----	--

野沢屋賞

油野由美子 葛の森	日本画	
-----------	-----	--

横浜高島屋賞

土屋良雄 景像B	洋画	
----------	----	--

入選

日本画

原 爾 美 神樂		
大島司郎 交叉(二つの形象)		
仙波存乃恵 鼓		
宮川信一 泰		
吉崎福子 漠 II		
三浦孝輔 春を待つ		

飯野静江 遊	
結城巧 岸辺の家	
大島実 窓蔭を流るる四季	
香野ルミ子 初春	
香野雄吉 碧風	
小島敬介 白い木I	
小島洋子 作品A	

洋画

竹村皓子 秋の画室	
森秀男 帰結の詩	
田中淳 うなさか	
植田暎躬 トポグラフィIII	
佐藤隆良 ひだまり	
中西新太郎 故園秋色	
	祭り終る
	時計のある風景
	対岸C
	ポンデザールの午後
	景像C
	街角より
	作品 72(1)
	むかしむかしI
	牛頭の連想
	船着場II
	枯木
	海のみえる風景A
	街A
	青い静物
	白い静物
	面の行方
	若い女の肖像(3)
	惑
	夜の祭壇A
	Come back
	話
	星
	室内 B
	室内 II
	樹のある風景
	fiction No. 2
	七月
	八月(終焉)

稻木 孝 早春
石成 淳 冬日
剣持 和夫 虚空間

水彩画

香川 猛 雪のメルヘン (B)

版画

曾我朝彦 默示録(騎士達)
佐々木英夫 鏡の前で (B)
佐久間正彦 青春墓標 "脱出"
北見タダオ 風景
須山 孝 裸婦 No. 1
成田 進 今日と昨日の間
原田 映爾 墜落する曲芸師
泉沢 守 愚人の旅 (ぶらんこ)
愚人の旅 (化身)
菊地俊治 来迎図
山本隆一 何をやりたいと云うだ
木

隅山きよみ 沖縄、繁栄と蔭
沖縄、私はそこで、
碑の前で娘に会う
高岡松夫 輪の切れつ
高橋 功 夢想鹿踊 1
柏谷治子 Beginning

彫刻

柏原花子 立つ
須山高夫 春風
越川勝利 痩せた女
細井巖 おんな
清水静枝 少女 II
山本陸彦 膝で立つ
円鍔元規 おさげ髪
渋谷武美 夕映え
石井哲雄 NAGAKO
斎藤真理子 裸婦
久永千代子 裸婦
金子篤司 樹氷

立体造形

半田英人 方法序説 作品 I
栗原昇 自由への修行
(Jointing 78)

国吉直敬 昆虫記(石、セロファ
ン)

松川幸寛 歪み
渡辺吉隆 木・鉛
ニシワキユリカ した半分

下山良範 作品 C
老子英夫 土地・層
中林富紀子 構造 I

高木修 転化 A
山本衛士 逆ビラミッド 6—接触
小暮茂太郎 無題

高橋勝 隔離された
小林晴夫 日常と自然、文明圏
松下哲雄 軌跡のプロジェクト
高橋緑 アイス・ブロックによ
る作品

倉重光則 浜辺につもった白い雪

工芸部門

入賞 特選

五十嵐千代子 深海
辻井賢式 秦
竹内佳夫 作品32 CROSS
神山尚子 手織紬着物 I
堀久代 七宝の壁面

入選

乾定夫 鎌倉彫手箱
村上たま 鳥をよぶ
根来茂昌 肩衝四方口釜
平丸釜
野中春甫 灰釉壺
鉄彩鉄釉壺
佐藤靖房 胎動
灰釉壺
後藤寿美恵 若い母
橋本公恵 岬
平田徹子 調(刺繍)
村木朝司 雪華釉金彩大皿
番井愛 七宝銘々皿
野田利子 この刻よいつまでも

竹 村 佳 男	盛 器	関 田 栄 成	鉢
大 菊 昭 治	海 No. 1	松 島 芳	釣窯風五稜の盤
渡 辺 輝 人	偏 壺		壺
永 田 秋 岳	藤文三つ引出し	神 山 尚 子	手織紬着物II
大 東 律 子	「おお!!神様」		" III "
加 藤 皇	鉄釉壺	加 藤 真 理 子	壁掛(花)
	鉢(バラ園)		(波)
齊 藤 い つ 子	皿	赤 穂 陽 子	藍染壁掛作品A
西 島 洋 子	惑 星	原 田 敏 幸	四方盆
綿 貫 清	輪紋松葉	堀 久 代	七宝の壁面 その2
内 藤 元	早 春	森 脇 敏	跳 II
菅 間 ゆ み い	水の上の太陽と月	津 田 照 代	タピストリー
白 井 と み 子	七宝の為のフォルムA	津 田 照 代	鉢のケースメント
川 地 明 子	銀河その2	小 峯 重 太 郎	鎌倉彫 刀波盆
渡 辺 正 子	作品 A	尾 留 川 忠	八角盆
寺 脇 美 恵 子	七宝パネル	東 田 宣 且	盞
南 雲 見 風	息吹き	小 田 垣 要 司	白磁透し水指
桂 雅 子	パネル No. 1	平 澤 靖 男	壁面装飾
小 川 淳 子	鎌倉彫額		銅・真鍮による薄板レ
高 垣 慶 子	鎌倉彫額		リーフ
越 智 美 由 生	太陽と潮と	佐 藤 節 子	落 日
渡 辺 恵 美 子	動	南 冴 子	樹
成 毛 進	鉄釉壺	岡 村 康 子	乾漆 角水指
山 県 静 子	さきもりゆ 防人征く		
成 田 欽 一	鎌倉彫変形鉢		
安 田 律 子	鉄線文大皿	書 部 門	
渡 部 は つ 子	かりがね		
太 田 光 子	四つ引出し	入 賞	
齊 藤 秀 子	No More War /	大 賞	
齊 藤 孝 行	"律"		
竹 下 康 子	香合(ほうずき)	島 津 碧 嵐	寒山詩
佐々木 ゆき枝	朝もや		
小 菅 春 代	遅 日	特 選	
大 宮 希 敏	「ブルーシャトウ」	矢 島 撫 周	司空図詩五言律
齊 藤 英 夫	パネル(彩輪)	重 田 翠 村	過香積寺
倉 田 俊 一	鎌倉彫八角茶器	真 柄 百 合 子	針切臨書
かわにし のぶ	スクリーン	岡 田 扇 香	臨書西本願寺三十六人集
前 仲 万 里 子	花 壺	阿 部 愛 子	百人一首
前 仲 邦 哉	灰釉方四		
甘 紗 信 子	掛 鏡		
鈴 木 き く 子	水 鳥	酒 井 賞	
竹 村 佳 男	作品'72	石 川 芳 雲	任蕃詩秋晚郊居
星 野 光 雄	鎌倉彫地紋変形茶入		
黒 木 小 夜 子	七宝パネルA		

入選

中島弥栄子	康劉廷芝七言古詩
瀬戸扇谿	聞鐘(席佩蘭ノ詩)
四宮撫琴	羅隱詩
陳撫鳳	杜甫詩五言律
奥田撫香	白楽天詩
山本撫嶽	李璟詞
近靖	七言句
相川鉄崖	芭蕉嵯峨日記妙
小巻仙空	張説詩
加藤翠郷	王維詩
溝口栄華	牛湧丹楓
竹下幽光	帰雁
鈴木玉葉	七言絶句
高木幽芳	唐詩
鈴木徹男	六言句
山下典子	和歌一首
立花正子	調和体徒然草
川田よし恵	和歌
渡辺桂仙	俳句たゞめば
細川靖子	和歌七首
秋山栄	創
関口大湫	杜牧詩赤壁
久保田昭子	新古今集
浜野与志江	和歌六首
宮川フジ	十番集
中島ハツ子	中務集
遠藤華楷	一篠せつさら集
大内千枝	閥戸本古今集
前田多美子	卅六人集伊勢集
平田十臥	王維詩
増田光子	万葉集歌
斎藤泥石	還
志村典子	新古今集二篠院讃岐
納谷嶋春	万葉集
相沢和晃	岳州逢司空曙
飯田如蘭	万葉集
高橋春籟	和泉式部歌集より
佐々木隆康	張説詩
栗原秀坡	泊翁詩
小川如泉	良寛詩
石井蘭如	良寛の詩
林如岩	良寛詩
飯原青州	子夜吳歌

柳直市	白楽天詩
早瀬香谷	良寛詩
西田静夫	唐詩五言絶句
藤城英吉	唐詩選七言絶句
森呉春	韓愈詩
吉沢栄三郎	李白詩
横溝珪洲	陸遊詩
井田武山	虞美人草
久保尾華栖	杜甫詩
平田白虹	元頃詩
伊東撫劍	馮延巳詞
本田梅處	王安石の詩
生嶋静月	陸遊詩
森本桂処	龜自珍詩
赤松万寿枝	和泉式部統集切
武藤香逸	七言二詩

写真部門

入賞

大賞

大谷正夫 師ミス・サンダー
(フェリス女学院)

特選

吉田政行 高原の朝
菊地喜保 マレーシャの少女

写真奨励賞

笛尾佳夫 三ツ石の夜
望月資介 市の夜
杉山寿一 残照
海老塚光男 湯の町芸妓
中牧一二 愛情
重野音吉 心のかて
中島倍三 山の分校(丹沢にて)
山本貞雄 出店
柳井秀芳 獅子舞

入選

畑義郎 荒廃

ひるた としお	魚 港	鯉 登 勝 彦	世 相
齊 藤 隆 夫	プラハの街角	田 卷 照 敏	影
谷 内 庄 司	壊された街	干 屋 栄 市	湖 水
清 宮 新 次 郎	裏富士	渡 辺 信 雄	浜に生きる
大 平 春 夫	ダンサー	田 辺 昇 一	あき家の顔
森 田 和 夫	若 者	諸 田 哲 男	犬族の楽園
高 橋 元 哉	春 眠	桑 田 喜 久 子	白い砂
小 林 秀 俊	蛇の目の母子	高 橋 宰 子	長屋の住人
飯 田 一 雄	祈 願		光源氏
水 野 昭 栄	白川郷	小 池 将 夫	病める足尾
村 岡 秀 男	My Room	山 口 明	始 発
藤 井 健 次	飛驒の朝	杉 本 鉄 雄	黒のプロフィル
和 泉 誠 司	迎 春	菊 地 幸 保	牛と少年
片 岡 大 祐	日の出のファンタジー	鈴 木 新 行	砂 丘
長 谷 川 潔	構 成	鈴 木 勇	旧軍の要塞路
武 井 金 二	手 話	石 川 正 明	伊賀の鬼二題
木 口 三 郎	プール サイド	滝 川 福 三 郎	冬の浅間山
佐 藤 裕 弘	だんだん畑	沼 島 専 也	サイケデリック・ボディ・ペインティング
水 野 紘 一	初冬の浅間	田 中 清 隆	幻想のヌード II
武 田 功	竹	佐 久 間 博	シユカブラ咲く羅臼岳
堀 坂 和 夫	攻 防		山頂
吉 田 政 行	零	深瀬 強	火口丘の印象
加 藤 惣 平	ふるさとのひるめしどき	木 村 有 一	斜 面
坂 倉 哲	富士と富士川	三橋 松 太 郎	Nude
齊 藤 孝 行	ヌード 2 態	大 山 矩 孝	城
中 村 光 男	砂 丘	鈴 木 正 義	新雪の北アルプス
院 瀬 見 統 吉	幸せなワン君	竹 本 黙	サマーフライダー
	山下公園	大 野 武	ある日浅草
鈴 木 武	待ちわびる	真 殿 礼 次	大荒行成満
笹 本 繁 宏	常滑にて	伊 東 弘	手
坂 内 一 夫	知多の詩		希望—重複心身障害児の生活
小 林 美 勝	ポーズ A		
金 沢 豊 志	回 廊		

コンクール展講評

日本画

日本画入選のレベルが一定して、県展日本画の実力はたしかに向上している。従来、六回の県展で二度まで大賞を獲得している日本画だが、その多くは画界で新鋭と目される作家たちの作品だった。ところが、ことしは、そういうベテラン作家の出品がなかったのに、最後の授賞選考のコンクールで他部にごしてすこしも劣らないせりあいを演じ、三点の入賞作を出したのである。

入選十六点は出品点数の三分の一だから、さほどの厳選とはいえない。しかし入選作品の内容は立派なもので、どの展覧会へ出品しても入選できるものばかりを選んである。選別は決して甘くないし、県展のレベルを低くみられては困る。全作品、すべて審査員全員一致の結果生れた入選作品である。入賞作のうち「焚」は、独創的な技法にすぐれた資質を見る。伝統と新時代との感覚的融合が感じられる。「葛の森」の作者がひたすら自然との対決に徹する態度も見あげたもので、独特の写実美が発現する日が近いだろう。「女の館」には細緻な描写がゆきとどいていた。その他「交叉（二つの形象）」、「遊」、「初春」などが特に印象に残っている。

（竹田道太郎）

洋画・版画・水彩画

県展の質的な問題は、年ごとに加わってきてているようだ。これは、どの県展、グループ展、団体展にもみられることがあるが、この困難さがその年その年の記録となり、この困難さがどこからくるかを出品作家とともに考えたいことだ。

出品作家が力作を毎年、出品されることに対して、そのエネルギーに驚き、敬意を払うことにやぶさかではないが、それぞれの作家が自己の性格をもたれることができ、どんなに困難であるかがわかる。

大賞の中西新太郎氏の作品は、タペストリー織のような画面に、いつも自己の黄昏のような幻想を展開されていて、ぼくをよろこばせた。その他の受賞作家についても、それぞれの感想をもったが、また来年の出品を期待したい。

（土方定一）

彫刻

神奈川県美術展発足以来良き資質を持った作家が多数応募し認められてきた。搬入作品も年々増加し、一応盛況であるが特に秀ぐれた作品を見出すことが困難であったのが本年の実情である。総じて写形的傾向が目立ち旧態と苦渋が体質化しているように思える。材質からいっても、もっと多様な作品が作られてよいはずである。

量と量とが作る対比、面が交叉してできる空間少差で失う重心の安定、強調と変形、造形の原点に立って今日の彫刻を創る必要がある。

中島嘉樹作「トルソ男」は唯一の受賞作品であるが、力量もあり生命と力を感ずるに充分であった。内在する人間性がロダン、荻原碌山に通ずるものがある。研究の基礎をここにおいたのであろう。ブルデルがロダンを出発とした如く君のこれから努力を期待したい。

運に漏れた人には不遇の時代においてこそ一層の不屈の努力を続けられるよう願って止まない。

（井上信道）

立体造形

昨年にくらべて、応募点数も増加の傾向にあり、また全体の質がかなり向上してきたのが今年の特徴である。しか

し、中には作家のコンセプトが明確でないために、作品をあいまいな状態にしてしまっているものも多くみられたようである。立体造形として提示される作品は、造形の美しさやコンストラクションの面白さにのみあるものではなく、絵画や彫刻では表わし得ぬものを、作家とものあるいは作家とひととの関係において、もっとも適確に表出するものでなくてはならない。それは必ずしも立体であったり、造形である必要はないのであって、作者の姿勢がどのようなかたちとなって提出されるかにポイントが置かれるものである。美術奨学会賞になった鶴沢明人や賞候補になった中林富紀子や高橋勝等の作品はそれぞれ明確な姿勢を伝えるものとして高く評価したいところである。（伊藤隆康）

工芸

県美術展本年度の公募作品は昨年度を上まわる出品数で、その内容においても充実してきた。したがって審査の折は、優劣の決定に非常に慎重であった。

審査の最後まで、心惹かれる作品も数点あったが陳列場の関係で止むを得ず選外になったことは残念であった。

陶器とか金工、その他それぞれの部門で、初期にみられたようないかがわしい作品がなくなって、真摯で研究的な作品がふえたことは喜ぶべきことであるが、尚一層、個性ゆたかな、他の追従をゆるさぬような魅力ある作品の生れいでんことを祈っています。（各務鏡三）

書

第7回展は出品総数に於て若干の減を見たが、内容的には著しく全般的に向上を見せて居るのが喜ばしい。これら好傾向はいつに県展を目指す作家の中に既に東京に於て開催される一流展に於て確固たる、中堅層として不動の地位を築いて居られる人々が公募され、当然の事ながら好成績を挙げて居られる現実が大きな刺激材と成って居るのではないかと考えられる。

県展がこれらの方々の理解と努力に依って一回毎に内容的にふくらみ、強固な基礎が築かれ大いに成長を見るものと信ずる。

作品は各々漢字かな作ともこの所1~2年の裡に長足の進歩が見られ層の厚みを見せ、作風は堅実で今後順調な発展が頗る期待されるのは出品層が県展のあり方を良く理解されて居るあらわれではないかと思う。（殿村藍田）

写真

今回の写真部門の公募は、前回より点数も増加し、新人の進出が目立ちました。今まで活発でなかった地方からの応募が増え、今後しだいに県下各地の作家の台頭の芽を感じられます。みごと、金の大賞が射止められた大谷正夫姿氏の「師・ミスサンダー」（組写真）は、フェリス女学院の外人教師が、日本の子女の教育にその半生を捧げたを巧みに浮彫して、地方的な好題材を生かした作品です。吉田政行氏の特選「高原の朝」（単写真）は、味わい深い風景作品で、カラーの発色も良く、高原の朝のすがすがしい大気感をよく表現されました。風景作品の貧困が叫ばれていた時、この作品は實にタイムリーといえまるでしょう。菊地喜保氏の特選「マレーシャの少女」（組写真）は、東南アジアの観光旅行のチョロスナでなく、じっくり外国に腰を据えてマレーシャの少女達の生活を促しています。欲をいえば、彼女達の生活感情にまで突込んだカメラワークが加われば、大賞の作品に肉迫したと思います。奨励賞の9点はいずれも心にふれる題材を促えた佳品です。紙数の関係でふれられませんが、惜くも賞を逸した作品が十数点あったことを附記します。（奥村泰宏）

審査員

絵画・彫刻・立体造形

工	藤	甲	人
鈴	木	竹	柏
竹	田	道	太郎
森	田	曠	平
安	保	健	二
植	村	鷹	千代
国	領	経	郎
勝	呂	忠	
田	賀	亮	三
高	間	惣	七
田	中		岑
寺	田		透
土	方	定	一
中	谷	龍	一
星	崎	孝	之
齊	藤	寿	助
益	田	義	信
棟	方	志	功
志	村	計	介
高	田	博	厚
坂	上	政	克
井	上	信	道
安	田	周	三郎
齊	藤	義	重
岡	本	信	治郎
伊	藤	隆	康

工芸

青	野	武	市
各	務	鉱	三
慶	寺	丹	長
蓮	田	脩	郎
飯	野	吾	三
赤	地	啓	哉
高	垣	友	泥
野	田	帰	正
江	刺	芳	一
		榮	

書

鶴	飼	寒	鏡
中	村	松	堂
荒	木	幽	芳
松	岡	東	庵
佐	々木	如	空
鈴	木	小	江
比	田	南	谷
殿	村	藍	田

写真

魚	住	励
奥	村	泰
影	山	宏
田	中	洋
常	盤	夫
永	田	子
白	井	脩
		男

招 待 部 門

招 待 部 門 作 品 目 錄

日本画

森 戸 国 次 黎 明
山 口 玲 游 漢 木 水 ぬ る む
小 倉 遊 龜 娘
中 島 清 之 実 有 明
小 島 一 霧 雨 の 北 陸 街 道
小 松 井 澄 佳 風 景
向 井 久 万 浮 遊
山 谷 裕 透 化
結 城 天 童 風 景
石 川 天 韶 悠 遠
上 田 臥 牛 太 鼓
大 山 鎮 石 踊 紘 一 記 錄

洋 画

有 島 生 馬 アグリジェントの風景
木 下 孝 則 バ ラ
中 村 琢 二 風 景
中 谷 龍 一 客を待つ馬車・スイス
猪瀬 踏 花 少 女
越後島 進 風 景
木下寿々子 馬ラッカ風景
小 泉 元 生 風 景
源 川 雪 雪国の三月
吉 崎 道 治 風 景
岩 館 知 義 オン・フルール港
寺 井 重 経 花
国 領 経 郎 風 景
桜 庭 彦 治 伊豆の后後
鳥 居 昇 人物
新 井 康 須 雄 風 景
石 田 精 吾 石 仏
阿 部 和 美 横浜港
井 口 啓 海
梅 林 良 子 人 形
矢 野 雅 章 待 春
樋 口 善 一 上越清津川
桐 生 照 子 風 景
佐 々 木 文 綱 婦人帽子店
出 口 竜 王 黄色い椅子のある風景
川 口 雄 男 パリー街景
三 樹 保 保 パリーの裏町
添 田 定 夫 静 物

内 藤 雅 彦 静 物
佐 々 木 福 基 子 花
鈴 木 雪 常 吉 魚 よ
増 田 常 実 吉 遠 い 街
川 島 実 栄 子 丹 波 の 坂 道
川 口 栄 純 佐 壺 を 搬 ぶ
佐 藤 美 文 風 景
戸 津 正 郎 風 景
岡 野 源 一 郎 秋 草 図
足 立 虎 雄 ト レ ド の 塔
安 喰 雄 助 春 近 き 乘 鞍 岳
岩 田 栄 之 二 男 夫 静 物
越 木 下 代 利 輔 あ じ さい な ど
木 田 辺 武 夫 山 風 景
田 中 寿 太 田 作品 L
横 尾 丈 夫 古 い 建 物
水 野 英 捷 森 の 写 生
高 山 岩 賢 賢 海 の 静 物
赤 杉 本 井 佐 Surface of the sea
石 井 中 木 佐 藏 王 の 崖
青 安 江 一 進 古 い 建 物
野 青 一 信 紹 ト レ ド の 塔
安 江 一 伸 美 也 ト レ ド の 塔
江 志 村 久 夫 ト レ ド の 塔
西 野 弥 太 作 品
野 口 弥 太 作 品
白 鳥 三 商 勝 ト レ ド の 塔
大 森 勝 寛 ト レ ド の 塔
杉 浦 一 伸 ト レ ド の 塔
勝 田 伸 茂 ト レ ド の 塔
江 波 一 伸 ト レ ド の 塔
勝 呂 伸 茂 ト レ ド の 塔
木 村 一 伸 ト レ ド の 塔
木 清 野 良 桧 旅
木 村 良 桧 軌
曹 根 亮 男 湿 原
松 本 久 光 梅 の 里 ・ 下 曾 我
野 村 光 風 景

市川 勉 お遍路の通る道
 永井 肇 白い長方形
 古川 益弘 鳥
 森 秀雄 偽りの青空
 星崎 孝之 助 FLAMME
 荒井 茂雄 青い鳥
 田沢 茂茂 四季
 小関 利雄 風景
 柴田 善登 山湖
 安保 健二 ドックの漁船
 小林 義範 漁港・伊豆
 瀬島 好正 かたち
 稲葉 治夫 A Relation 72.1.31
 油野 誠一 午後の風景
 細井 千鶴子 ひと
 田賀 亮三 作品
 広瀬 一二 作品・青
 宇都宮 マリ 作品・青
 井上 俊郎 アーチと少年・ローマ国立博物館にて
 小菅 徳二 雜草
 塚谷 恵津子 静物
 森川 ウキエ 風景
 和田 松久 座る女
 稲木 秀臣 作品
 寺田 春式 想・秋の薔薇
 佐藤 努 ロマネスク
 飯島 義也 藏王を望む
 千田 高詩 無の充実
 塚本 茂 モムマルトル・パリ
 加藤 義雄 静物
 浅生田 光司 雪山
 島田 四郎 春近し
 金岩 清隆 桜島
 兵藤 和男 静物
 越後島 芳明 風景
 湯川 治郎 蘭花
 後藤 武久 春の岬
 善波 迪春 郊
 大道 健治 ヨットハーバー
 川村 直子 '72-2
 濱田 嘉代 花
 笹 英子 石切場
 高間 憐七 蘭花と鳥
 木下 米子 作品

鶴田 猛 建物
 水彩画
 進藤 清 風景
 井上 正子 雪景
 田中 君江 シエナ近郊
 三橋 兄弟台 リュクサンブル公園晩秋

版画
 斎藤 清 円覚寺・鎌倉
 田島 宏行 流人 B
 棟方 志功 風妙の柵
 中田 幾久治 聖橋遠望
 馬渕 聖 静物
 岸 浩 黄蝶
 岡本 信治郎 鎌倉・大仏の海
 斎藤 義重 作品

彫刻
 高田 博厚 裸婦立像・Statuette
 西谷 富士雄 立つ女
 菅沼 五郎 作品
 堀口 泰造 アルルカン 首
 伊藤 芳雄 馬
 圓鍔 勝三 少年
 長江 錄弥 小牧山の家康公
 安田 周三郎 うずくまる
 浅井 行雄 裸婦
 松本 繁来 春の作
 堀内 治雄 早春
 斎藤 顯治 作品 72
 井上 信道 像

立体造形
 高木 敏行 Who is to blame?
 山井 イク夫 LANDSCAPE・風景

工芸
 漆芸
 赤地 友哉 曲輪造平棗
 赤堀 郁彦 cross-II
 飯野 啓三 街
 硝子
 各務 鎌三 クリスタル花器
 吉田 丈夫 クリスタル硝子花器
 青野 武市 クリスタル オブジェ

小林 貢	細い首のつば	大島 撫	山	七言絶句
金 工		大島 嵐	山	五言律詩
今井・久江	初 春	鈴木 小	江	横浜市歌
慶寺丹長	飛 天	川 口	芝	賀の歌
中田呂尚	飯口刷目釜	佐々木	如 空	良寛詩
永井鉄太郎	オーガニック・コンポーズ	志賀 正	枝	万葉の歌
根来実三	潮声釜	斎藤 丹	鶴	おくのほそ道
府川一信	花石榴	西川 万	象	欧阳修詩戯答元珍
舟越健次郎	芳 映	大西 芳	流	
中村董一	生	高木 三	甫	万葉歌
水野矯夫	"72" エチュードNo.2 流転	田中 真	洲	鼠
佐野登志子	エッチングによるメタリック七宝B	溪口 幽	城	觀心證道
山口寿雄	池の意	大道 静	波	聴夜擣衣
染織		中村 松	堂	松堂作 七言二句
磯部陽	竹 林	中平 南	谿	魁百花
佐藤もとみ	ばら	西村 西	洲	寒山詩
廣井樹美	梅	玉木 瑞	堂	七絶
人形		比田井 南	谷	穢
市橋とし子	風のひまい	比田井 小	葩	前田夕暮の歌
野田芳正	相	山口 清	苑	唐詩 五律
前田金弥	花	松岡 東	庵	僧明秀七言絶句
陶芸		三室 金	羊	禪句
河村又次邦	窯変釦彫渦文壺	吉田 蘭	處	陸游詩
芝山吉邦	作 品	鈴木 竜	雲	陶淵明詩
鈴木三成	花 器	由井 大	翠	桃李不言
高垣帰泥	鉄彩壺	萩原 櫛	風	七言
南雲竜	ロブノールへの道	池上 鶴	洋	唐詩
松島宏明	焼メの壺	中山 鶴	雲	さくら
富永脩	失樂園	殿村 藍	田	横浜竹枝九首
木竹		写 真		
松井三郎	Life Point-No.1	影山 光	洋	冬の富士
鎌倉彫		永田 一	脩	さくら 轆轤の手
伊志良不説	菊唐草 茶入 柿 香合	奥村 泰	宏	裸婦
江刺栄一	盛 器	江間 弘		吉野春秋
小野次雄	華文盆	常盤 とよ	子	仕度部屋
書		塩田 正	男	ヌード
青木香流	八木重吉詩 光	須田 恒	弘	しらかば林
天野翠琴	ゆ	里見 力	曆	水鳥
荒木幽芳	春	野沢 喜	七	きょうのきょう
鵜飼寒鏡	冬の日	鈴木 登美太郎		野仏・秩父にて
		鈴木 健夫		歩行者天国
		平山 勉		農夫
		伊藤 藤十郎		外人親子
		加賀谷 武	男	下町のお姐さん

